

太田川の利水

太田川では、江の川水系の土師ダムからの分水もあわせ、発電用水、工業用水、水道用水、農業用水等広域的かつ多用途な水利用がなされています。農業用水は約3,100haの農地でかんがい利用されており、水道用水としては、広島市に日量562,000m³、呉市に日量50,000m³等が供給されています。さらに水力発電用水として、発電ダムに貯留された水が小水力発電も含め、23箇所の発電所で、最大87万kWの発電に利用されています。

◎高瀬堰（たかせぜき）

高瀬堰は、太田川中流部右岸一帯のかんがい用水の取水施設として設置されていた高瀬井堰（固定堰）を改築して可動堰として昭和50年に建設されました。

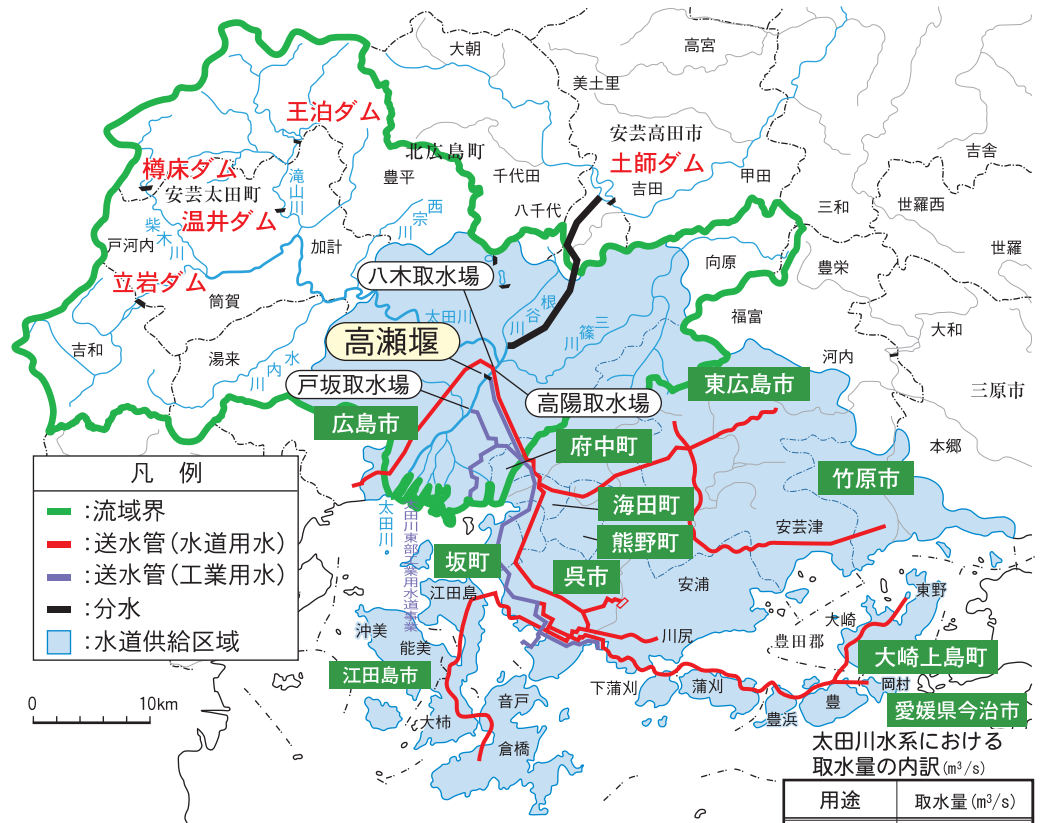
太田川及び土師ダム（江の川）からの分水、温井ダムからの供給により堰に貯めた水を、広島市、呉市など6市5町に暮らす約160万人の県民や企業に供給しています。



高瀬堰（広島市安佐南区八木：平成17年5月撮影）

堰の諸元（形式：可動堰）

■堰高	5.5m	■総貯水容量	1,980,000m ³
■堰長	273.0m	■有効貯水容量	1,780,000m ³



太田川に設置されている主な発電専用ダムの諸元

ダム名	立岩ダム	樽床ダム	王泊ダム
完成年月	昭和14年8月	昭和32年6月	昭和10年6月
目的	発電	発電	発電
有効貯水容量	15,100千m ³	17,500千m ³	26,100千m ³

用途	取水量 (m ³ /s)
発電用水	546.6
水道用水	9.7
工業用水	3.3
農業用水	3.5
その他	0.0
合計	563.1

※農業用水は許可水利権を基に作成
※水道用水・工業用水は土師ダムの分水を含む